

放射線科だより



令和5年7月21日
診療放射線科 畑田 瞬

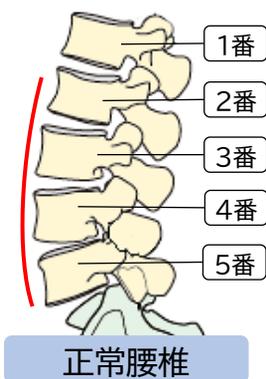
《脊椎疾患：腰椎すべり症》

・ 腰椎すべり症とは？

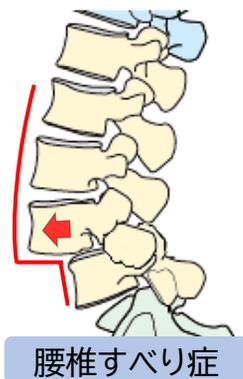
腰椎すべり症とは、腰骨を構成する連なった骨（腰椎：ようつい）が前後にズれることで脊髄神経を圧迫し、痛みやしびれなどの症状が発生する病気です。

代表的な症状は間歇性跛行（かんけつせいはこう）です。間歇性跛行とは長い間歩いていると、脊髄神経が圧迫され足腰に痛みやしびれ感じ歩行困難となりますが、しゃがんだり前かがみになるなど、神経の圧迫が解放されるような姿勢で休憩すると、また歩けるようになります。

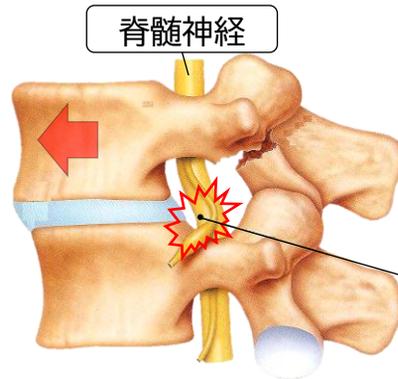
中高年の女性に多いのが特徴で、腰椎の④番目と⑤番目によくみられます。



正常腰椎



腰椎すべり症

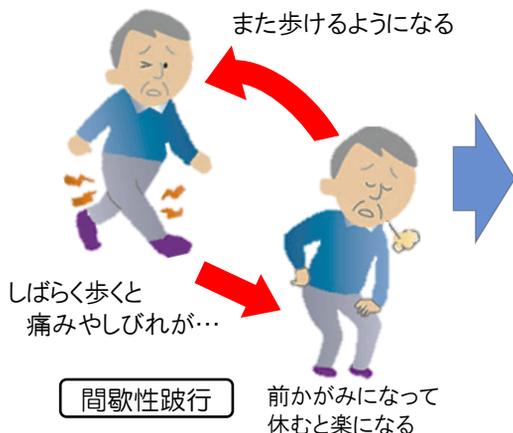


腰椎が前方にズれることにより、脊髄神経が圧迫され痛みが生じる。

・ 検査/診断

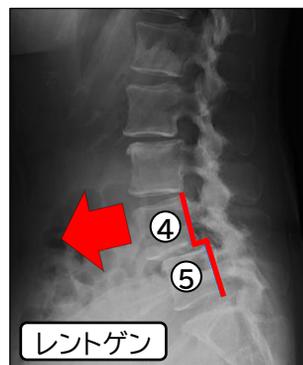
腰椎すべり症の診断にはレントゲン検査とMRI検査が行われます。

レントゲン検査は腰椎の形、前後のズレを調べます。MRI検査は腰椎のズレにより脊髄神経がどれだけ圧迫されているかを画像化し、詳細に観察することができます。



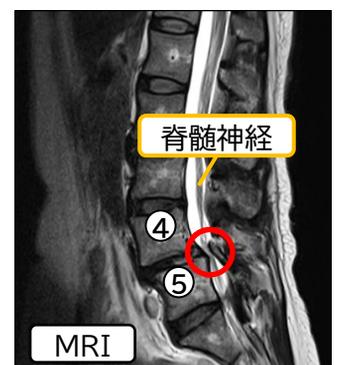
間歇性跛行

前かがみになって
休むと楽になる



レントゲン

▲腰椎④番が前方にズれている。



脊髄神経

MRI

▲腰椎④番と⑤番の間の脊髄神経が圧迫されている(赤丸)。